

## 第2次千葉県生涯大学校マスタープラン（原案）の修正について

項目	原案（パブリックコメント前）	パブリックコメント等による意見	修正案
I-1 第2次 マスター プランの策 定の趣 旨	（P1：4～6パラ目） ・・・見込まれています。 また、「2020年東京オリンピック・パラリンピック」では、本県でも一部の競技が開催されます。そのため、観光客に県の魅力を伝える役割を担うボランティア人材の確保が求められています。 このような中、本「第2次千葉県生涯大学校マスタープラン」では・・・	・2020年のオリパラをターゲットとした書き方になっているが、高齢者の経験を活かすような書き方とした方がよい。	（P1：4～6パラ） ・・・見込まれて <u>おり、元気な高齢者の方々に地域社会で役割と生きがいを持って社会参加をしていただくことができます</u> と求められております。 <u>このような中、本県でも一部の競技が開催される「2020年東京オリンピック・パラリンピック」においても、高齢者の方々の経験を活かした本県の魅力発信や質の高いおもてなしの提供などが期待されています。</u> <u>本「第2次千葉県生涯大学校マスタープラン」では・・・</u>
	（P1：最終行） 地域活動に参加することによる生きがいの高揚につながることを目指しています。	・地域活動に参加することの生きがいの高揚 → <u>学習成果を活かした地域活動に参加することの生きがいの創出、充実</u>	P1：最終行 <u>学習成果を活かした</u> 地域活動に参加することの生きがいの <u>創出、充実</u> を目指します。
II-1 生涯大学校の存在意義と果たすべき役割	（P4 <地域活動で期待される人材の例> 地域の活性化等） 地域独自の祭りや催事の企画、運営あるいは観光ボランティアガイド等を行い、地域の活性化を図るプロデューサーとして活躍できる人材	・地域活性化に必要な最大事項は「共助社会の構築」ではないだろうか。したがって以下のようにしてはどうか。 「・・・ボランティアガイドなどとともに共助による地域の活性化・・・」	（P4 <地域活動で期待される人材の例> 地域の活性化等） 地域独自の祭りや催事の企画、運営あるいは観光ボランティアなどの活動を通して、 <u>共助による地域づくり、活性化を図るためのプロデューサーとして活躍できる人材</u>
II-3 学習テーマの3本柱	（1）地域活動に役立つ知識と技能の習得 （P8【現状と課題】） 生涯大学校への入学時は、地域活動の経験がない人が約半数を占めていますが、卒業後は、多くの高齢者等が地域活動を実施しています。地域活動への参加について、生涯大学校の卒業生からは、「学校へ通い、学習していくうちに自然と地域活動への意欲が湧き、卒業後に活動を始めた」という声が多数聞かれます。	・5行目中ほどの「地域活動を実施」は「地域活動を実践」のほうが良いのでは。  ・【現状と課題】となっているので文末に以下を付記してはどうか。 「今後さらに地域活動への参加をどのように増やすかが求められています。」	（P8【現状と課題】） 生涯大学校への入学時は、地域活動の経験がない人が約半数を占めていますが、卒業後は、多くの高齢者等が地域活動を <u>実践</u> しています。地域活動への参加について、生涯大学校の卒業生からは、「学校へ通い、学習していくうちに自然と地域活動への意欲が湧き、卒業後に活動を始めた」という声が多数聞かれます。 <u>今後さらに地域活動に参加していただくための学習環境の充実が求められています。</u>
	（2）地域活動を実践的に学ぶ 体学習 （P8【現状と課題】） また、2020年には、東京オリンピック・パラリンピックが開催されることになり、本県でも一部の競技が開催される予定であることから、ボランティア人材の育成が急務となっています。  （P9【今後の方向性】） さらに、東京オリンピック・パラリンピックの開催を見据え、より多くの在学学生がボランティアとして参加できるようカリキュラムの充実を図ります。	・オリパラが強調されすぎている。 ・生涯大はオリンピックの養成機関ではない ・オリンピックのボランティアは義務付けではなく自発的に参加するもの ・生涯大の学生の中には、現役時代に海外勤務を経験し、語学に堪能な者も多数いることから、正規の授業ではなく、特別授業を設けるのもよい。	（P8【現状と課題】） <u>なお、2020年には、東京オリンピック・パラリンピックが開催されることになり、本県でも一部の競技が開催される予定であることから、一人でも多くのボランティア人材が必要とされています。</u>  （P9【今後の方向性】） さらに、東京オリンピック・パラリンピックの開催も見据え、より多くの <u>学生が</u> ボランティアとして参加できるようカリキュラムの充実を図ります。

第2次千葉県生涯大学校マスタープラン（原案）の修正について

項目	原案（パブリックコメント前）	パブリックコメント等による意見	修正案	
Ⅱ－3 学習テ ーマの 3本柱	(3) 仲間ととも に活動す るノウハウ の習得	(P9【現状と課題】) ・・・グループになじめなかった場合は退学につながるケースや、「グループ以外の人と話す機会がなかった」という声もよく聴かれます。	・【現状と課題】 となっているので文末に以下を付記しては「・・・よく聴かれることからより工夫していくことが求められています。」 ・「グループ以外の人と話す機会がなかった」という表現が適切でない。	(P9【現状と課題】) ・・・グループになじめなかった場合は退学につながるケースや、「グループ以外の人とももっと交流できたらよかった」という声もよく聴かれることから、より工夫していくことが求められています。
		(P9【今後の方向性】) 今後は、演習や実習の活動単位となるグループについては、出身地域ごとに編成することを基本としつつ、交流を活発化するため、グループを定期的に再編成し、より多くの仲間との交流機会を設けます。	・仲間づくりのためには、頻繁にグループを変えるのも問題があり、少なくとも1年間は変えるべきでない。いずれにしても一長一短があるので、大学当局に任せるべき。 ・「グループについては教務や講師の意見も聞きながら」に変えるべき。学生の中にもいろいろな意見があり、グループの組み方について学生間で議論になってしまう。	(P9【今後の方向性】) 今後は、演習や実習の活動単位となるグループ編成については、出身地域をはじめとし、より多くの仲間と交流できるよう、学園関係者の意見も参考としながらグループを定期的に再編成することとします。
Ⅱ－4 設置内 容の一 部見直 し	(1) 課程、修 業年限及び コース名の 見直し	(P11 造形学部 【現状と課題】) 一方で、陶芸コースにおいては、市町村社会福祉協議会を対象に実施した調査において、陶芸の技術を活かした地域活動ニーズはあるものの園芸と比較すると割合が低いといった状況があります。	・「陶芸の技術を活かした地域活動ニーズはあるものの、・・・低い」の記述は、陶芸の講師陣のモチベーション低下を招く。 ・陶芸の技術を活かした地域活動ニーズが園芸と比べ割合が低いとあるが、求められている活動場所が異なっていることから比較すべき性格のものではなく、定員の削減は好ましくない。	(P11 造形学部 【現状と課題】) 一方で、陶芸コースにおいては、施設の入所者や地域の子ども達を対象にした陶芸教室や作品のチャリティ販売など徐々に地域活動が広がりつつあり、更なる活躍の場の広がりが期待されています。
		(P11【今後の方向性】) 街路樹や施設、公園の花壇管理といった街の景観整備や、地域の高齢者宅の庭木の剪定、繁忙期の農家の手伝いなど、園芸の技術を活かした地域づくりに貢献できる人材を育成していきます。	・今更、泥だらけになる農業を高齢者に手伝わせるのは検討違いだと思う。特に繁忙期の農家にとっては、足手まといで迷惑になる。もし希望者があるなら、紹介だけにすべき。全員がボランティアをするために学校に行っているのではない。 ・現在、農家には繁忙期はない。高齢化のために田植え、稲の管理、稲刈りは委託されています。専業農家は違うと思いますが、該当箇所の文章は削除すべき。	(P11【今後の方向性】) 街路樹や施設、公園の花壇管理といった街の景観整備や、地域の高齢者宅の庭木の剪定など、園芸の技術を活かした地域づくりに貢献できる人材を育成していきます。
	(2) 定員の再 編成につい て	(P13 枠内) ◆同一学部同一コースへの再入学は原則として行わないこととする。ただし、健康・生活学部において、学習内容の見直しが行われた場合など地域活動に寄与すると認められる場合は再入学を許可する。	・再入学について、新規希望者を優先し定数に満たない場合は、同一学部でも再入学を認めるべきである。勉学に意欲のある者を拒否する理由がない。 ・再入学する学生の実態は多様であることに配慮すべき。 ・再入学回数に制限を設けたり、再入学者は授業料を上げるなどして、再入学を認めたらどうか。 ・再入学を許可する基準をできるだけ明確にしてほしい。 ・地域の実情を考慮せずに一律に禁止するのはどうか。 ・再入学を認めないと陶芸は厳しい。週2日間通えない人もいる。余裕を持って学習したいと思っている。自らの技術を磨きたいから再入学をする。 ・健康・生活学部で再入学を認めるのは、ぜひやってほしい	(P13 枠内) ◆同一学部同一コースへの再入学は原則として行わないこととする。ただし、健康・生活学部において、学習内容の見直しが行われた場合など地域活動に寄与すると認められる場合は再入学を許可する。 <u>また、造形学部園芸コース及び陶芸コースで学んだことのある場合は、1回を限度に再入学を許可する。</u>

第2次千葉県生涯大学校マスタープラン（原案）の修正について

項目	原案（パブリックコメント前）	パブリックコメント等による意見	修正案	
Ⅱ-5 大学校 の運営 体制の 強化	(1) 卒業生の組織化とコーディネーターの役割強化	(P17【今後の方向性】) このような状況を踏まえ、全ての学園で、卒業生の組織化をさらに促進していきます。	・卒業生団体は生涯大学校の組織の一部ではなく、自主的自発的な団体であり、強制されるものではない。ましてや県は補助金も出さないのに口だけ出すのは筋違いである。	(P17【今後の方向性】) このような状況を踏まえ、全ての学園で、組織化がさらに促進されるよう、 <u>新たな組織の立ち上げを支援</u> していきます。
	(2) 市町村等との連携強化	(P19《連携の具体的な形》②) 卒業生の組織を市町村ごとにグループ化し、各グループがそれぞれの地域で活動できるような仕組みを推進します。	・「地域で活動できる仕組みを推進します」という表現について、自らグループを作る卒業生もいるので、もっと柔軟な表現とした方がよい。	(P19《連携の具体的な形》②) 卒業生の組織を市町村ごとにグループ化し、 <u>市町村への情報提供などを通じて、各グループがそれぞれの地域で積極的に活動</u> できるよう <u>後押し</u> します。
	(3) 大学等教育機関の連携	(P19 タイトル 及び 枠内) (3) 大学等教育機関との連携 ◆県内にある大学等教育機関との連携強化	・(3) 大学等教育研究機関との連携 ◆県内にある大学等の教育研究機関との連携強化	(P19 タイトル 及び 枠内) (3) 大学等教育 <u>研究</u> 機関との連携 ◆県内にある大学等の教育 <u>研究</u> 機関との連携強化
		(P20【今後の方向性】) 学生に質の高いカリキュラムを提供するため、今後は、連携する大学の特性や状況を踏まえた講師の派遣や、大学生等との世代間交流の実施、公開講座への参加など多様な連携方策を取り入れることとします。 また、少子化の影響で、高齢者向けの講座を開設している大学等も増加傾向にあることから、互いにメリットのある形での連携を進めます。	・「県には県立保健医療大学や農業大学校、衛生研究所やがんセンター研究所、農林総合研究センター、環境研究センター、博物館などの教育研究機関があります。これら専門性と地域性を兼ね備えた多彩な研究分野から講師を招いたり、共同研究に参加したりする機会を増加します。」 を追加したらどうか。	(P20【今後の方向性】) 学生に質の高いカリキュラムを提供するため、今後は、連携する大学の特性や状況を踏まえた講師の派遣や、大学生等との世代間交流の実施、公開講座への参加など多様な連携方策を取り入れることとします。 <u>また、県には、様々な分野の教育研究機関があることから、専門性と地域性を兼ね備えた多彩な研究分野から講師を招くなど、連携を深めていきます。</u> <u>さらに、</u> 少子化の影響で、高齢者向けの講座を開設している大学等も増加傾向にあることから、互いにメリットのある形での連携を進めます。
《参考：各学部の学習内容（案）》		・各学部の学習内容（案）の目的、備考欄について、それぞれ「自発的な」を入れていただきたい。 (健康・生活学部) ボランティア、自治会活動など自発的な社会参加に (造形学部) 自発的な地域活動に ・「孤立死」と「孤独死」の言葉を統一すること。	(修正しました)	
《参考：千葉県生涯大学校 イメージ図》		・イメージ図の中段の青○について、 自発的な生きがい → 生きがい 地域活動の → 自発的な地域活動の方がよい。	自発的な生きがい → <u>生きがい</u>	